

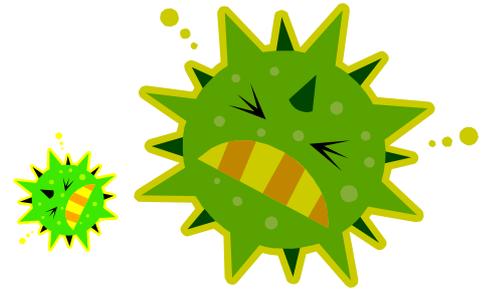
平成20年9月

京都市こどもの感染症

かんせんしょう

これから流行りそうなものは...

< 去年の今ごろ(9月)に多かった感染症 >



順位	病気の名前	特徴, 予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱, 下痢, 嘔吐などが症状です。予防は, 調理前, 食事前, トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので, 水分補給をこまめに行いましょう。
2位	突発性発しん	「生まれてはじめての発熱」は, この突発性発しんが原因であることが多く, 生後4カ月から1歳くらいまでの子どもがよくかかります。突然, 高熱が出て, 数日間続き, 熱がさがるとともに, 発しんが出ます。高熱のわりに, 元気なことが多いのですが, 熱性けいれんや脳炎を起こすこともあります。潜伏期間は約10日で, ワクチンありません。
3位	ヘルパンギーナ	夏かぜの一種で, 高熱とのどにできる水疱(すいほう)が特徴です。原因となるウイルスが何種類もあるため, 何回もかかってしまうことがあります。咳やくしゃみのほか, ウイルスが付いた手を介しても感染するので, 予防には, 手洗いとうがい大切です。

ポリオ(急性灰白髄炎)の予防接種を受けましょう!

毎年, 4月と10月の時期に, 保健所でポリオの予防接種が実施されています。
 対象となるのは, 生後3月から90月(7歳6カ月)の間にある人ですが, 生後3月から18月(1歳6カ月)の間の接種が望ましいとされています。
 接種は, 41日以上の間隔をあけて2回行います。

ポリオとは

ポリオウイルスに感染し, ウイルスが脊髄の一部に入り込むと, 手や足に麻痺が現れ, 後遺症となります。

かつては, 1~2歳の子どもがかかることが多かったので, ポリオのことを「脊髄性小児麻痺(小児マヒ)」と呼んでいました。

日本では, 昭和55年を最後に, ポリオの自然感染は報告されていませんが, 海外には, まだまだ流行している地域があり, こうした地域から, ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

気をつけたいこと

ポリオワクチンは注射ではなく, 口から飲むワクチンです。
 下痢症状等がある場合には, 接種を受けることができません。
 また, 予防接種を受けてから1カ月くらいは, ワクチンによるウイルスが便の中に排泄されますので, オムツ交換などのあとは, 便の処理をきちんと行い, 手洗いを徹底しましょう。

ポリオの予防接種については, 保健所から, 対象者にお知らせがありますが, 不明な点などがありましたら, 所轄の保健所にお問い合わせください。



気になる症状があるときは, かかりつけの医療機関に相談しましょう!

発行/京都市保健福祉局
 保健医療課, 衛生公害研究所
 (ホームページにも掲載しています。)